

20024

冠動脈CTにおけるランジオロール塩酸塩静注の心拍数減少効果とその安全性について

<sup>1</sup>桜友会 所沢ハートセンター、<sup>2</sup>桜友会 所沢ハートセンター

大西 圭一<sup>1</sup>、柴 俊幸<sup>1</sup>、桜田 真己<sup>2</sup>

【目的】 CVIT2012においてランジオロール塩酸塩静注は検査前心拍数が75bpm未満の場合、高い有効性を報告した。引き続きランジオロール塩酸塩静注時における心拍数減少効果と安全性について報告を行う。【方法】対象は2011年10月から2012年6月までに行った冠動脈CTにおいて検査前心拍数65bpm以上を呈しランジオロール塩酸塩を使用した766件とし、不整脈症例及び検査前心拍数90bpm以上は除外する。投与量は検査前心拍数が75bpm未満の場合0.125mg/kg、75bpm以上の場合0.125mg/kgから0.3mg/kgの範囲で医師により規定し、投与時間は1分にて行う。結果は投与量(mg/kg)ごとに心拍数推移及び心拍数変化量の比較を行い、それぞれの投与量について撮影時に65bpm以下を呈した割合を検証する。また、入室時から撮影終了までの血圧および投与前後のPQ時間を測定し、その変化量から安全性の検証を行う。【結果】検査前心拍数が75bpm未満の場合、心拍数65bpm到達率は89.1%、80bpm以上では16.8%となった。検査前心拍数75bpm以上では投与量依存性が認められ、増量投与の必要性も示唆された。大きな血圧低下やPQ時間延長は認められず安全性の高い薬剤であることが確認された。【結語】検査前心拍数に応じてプロプラノロール塩酸塩などとの使い分けが必要である。